

市政を問う

20人が一般質問



一般質問は要点だけをまとめたものです。全体を知りたい方は、会議録が各町図書館にありますのでご覧下さい。また、小城市のホームページにも掲載されます。
(会議録の設置及びホームページ掲載は3月下旬の予定です。)

江島佐知子 議員



市民活動推進のためにサポートを

問 ①補助金申請などの諸手続きを簡素化するべき。

②公共施設の空きスペース

を活動拠点にできないか。
③市民が無理なく活動に参加できるようなサポート体制が必要ではないか。

答

(江里口市長)
事務対応については、市民の立場に立ったサービスができるよう改善していく。

協働によるまちづくりの確立のためにも重要であり検討中。拠点施設運営のための中間支援組織の立ち上げも推進したい。



▲ボランティアの協力で開かれたクリスマス会

社会福祉協議会が中心になってサポートしている。社協と連携を取り支援したい。有償ボランティアについても検討中。市民協働を視野に入れた組織のあり方についても現在協議中。

農業・水産業の振興で元気な小城市に

問

①農業・水産業は基幹産業として重要。食育や地産地消と関連つけた振興策は。

②小城ブランドの開発について進捗状況は。

答

(江里口市長)
食育推進に関わる多くの団体のすばらしい活動がある。国、県など他の行政機関、庁舎内部課間、

生産者、農業グループ、農協、漁協との連携により小城市の活動としてPRし振興につなげたい。

検討委員会を立ち上げ模索中。新商品の開発、今ある資源のブランド化、販売ルート、安全性、採算なども重要。

答 (北島産業建設部長)
食育、地産地消など各課と連絡を取り合いながら進めたい。

放課後児童クラブの充実

問

指導員の現状と今後の方針は。

答

(今村教育長)

ハククラブを運営しているが、指導員は何らかの資格を有している。今後は児童二十人に一人、発達障害児三人に一人の配置を検討中。意見交換会や研修会の実施も積極的に行なう。

深川 高志 議員



市長の考える本庁舎の候補地は

市長は、本庁方式の本庁舎候補地の最終報告を十二月議会で行うとのことだが、コン

サル委託の調査書や移行検討懇話会の答申を受けどの様な考え方でどこに候補地を選定されたのか。

答

(江里口市長) 今新たに多大な投資をしながら庁舎を建設するのは市民の皆さんたちの理解も得られないという思いで既存庁舎の利活用をしていくと表明しており、小城、牛津の中心市街地だけでなく芦刈、三日月などの庁舎も含め

て総合的に評価をする作業を始めた。四つの庁舎を総合的に判断し、拡張性、災害、危機管理、財政、住民の利便性、都市計画いずれにしても、市民の皆さん方の理解が得られる場所として一番評価が高かったところは三日月町である。



▲三日月庁舎

財政見通しにおける大型事業の考え方

問

①塵芥処理場建設候補地の選定は②スマートインターチェンジ設置について③工業団地適地選定調査と今後の計画④小城市中心市街地活性化事業計画の考え方⑤財政見通しにおける事業の必要性と情報公開

答

(江里口市長) 市内から満遍なく抽出し、絞り込んでおり、最終段階である。県との協議のほか、アンケート調査を実施。スマートインターチェンジ導入は、企業誘致、観光客誘致に大変有効と思う。企業誘致のため調査し、確保に向けて業務を進めている。小城市中心市街地の空洞化問題に対して早急な取り組みを進めることが

将来的に小城市全体の都市の形づくりにつながると考え、中心市街地活性化事業の計画を立てていきたい。

現状認識と市そのもののまちづくりに対する危機意識を持った施策を展開する。財源はどこからもってくるのか計画を立てて、市民の皆さん方に示すことが必要である。そのため情報公開はしっかりとやっていく。

下村 仁司 議員



小城市まちづくり策定手法は

ソフト事業コンサルタント委託についての根拠、専門性、考え方は。

答

(江里口市長) 小城市に登録している土木コンサルであること。都市計画、地方計画の技術士がいること。過去三年間に都市計画、地方計画において同程度以上の実績があること。県内に事業所又は営業所があること。専門性も考慮して指名委員会にて指名している。

答

(森永副市長) 総合計画や本庁方

式等は指名の中から提案方式を取り入れ加えて選定している。

問

市庁舎の移行方式は東京の防災専門のコンサルで提案できるか。コンサルは本庁舎の位置は小城と提案しているのに市長は本庁舎の位置は三日月と発表した。八百四十万円のコンサル委託料は無駄ではなかったか。芦刈地区交流センター計画に東京のコンサル

答

(江里口市長) 担当部・課でしっかり設計価格を出したのを参考に、私が予定価格を決定する。

問

①本庁舎移行は随意契約の理由は。②大事業ソフト事業委託は落札率四十%の理由は。

答

(江里口市長) 現状や課題または新築や増改築を行うコストの比較 予定価格の

設定は適正である。

問

財政難と言いつながら市民への助成金はカット、まちづくりの理由で東京のコンサルに無駄な金を払っている。住民サービスのために財源の活用が大切である。本庁舎移行、小城市中心商店街策定は撤回だ。コンサル委託や経過に理由がない。

三根 實 議員



市として何かできないか

品目横断的経営安定対策が始まって、農家経済がはずたになり、今いろいろな議論が

されている。昨年までは、農業機械、施設園芸の導入に対して、県単事業で四十三パーセントの補助事業があったが、今年度からは集落営農組織に対しては五十パーセントだが、担い手に対しては三十パーセントの補助率に移行した。本当の意味で地域を担って行く担い手に対して、市独自の補助率のかさ上げができないか。

答 (江里口市長) 十九年産から農政が大きく変わっている。集落営農組織と、担い手への支援について格差があるのは事実である。私自身もこれは疑問に思う。農家の皆さんが置かれている現状は大変厳しいものがある。そうした中で自治体として国、県へ要望をすること、そして、市として何ができるのか、二十年度から農政に関連して何かの手だてを考

えていきたい。

荷物をおろせ

問 運動公園跡地の利用法についての質問が過去にも何度となく出てきているが、そのたびに、国、県の補助事業を見つけないで考えて行くという答弁で今日に至っているが、平成十二年に中止が決定し七年が経過している。七年たつてできないものは、もう

できないと私は思う。行政サービスが広がっていく一方で、いろいろな問題を抱え込み過ぎているのではないかと。市長の考えは尊重すべきだが、庁議の中で、この問題は何か、もしない方がいいとか、塩漬けがいいとか、進言するのも小城市のためになるのではないかと。荷物を抱え過ぎて、おろすことが出来ない。あの運動公園を中止した江里口市長、このくらいの小さな問題をいつまでも引きずる必要はないと思うが。

答 (江里口市長) この公園の跡地活用は山辺の道、農園の整備を行って来た。小城市の現状を見ると、学校、庁舎、清掃センターなどの大型事業が控えている今日、財政状況はひっ迫している。自主財源の確保も必要であり、民間への用地の払い下げなども考えていく。

大坪 徳廣 議員



高温障害の拡大にどう取り組む

平成元年より現在は佐賀県の銘柄品種として君臨してきたが、ここ

数年高温障害が拡大している。農家は遅植などに対応し、施肥基準も見直し、化学肥料も抑え、蛋白量を六・八から六・三に基準を置いている。人工衛星米など安心安全でおいしい米づくりにも取り組んでいるが、限界がある。新品種の取り組みはどうされているか。

答 (江里口市長) ヒノヒカリは高温登熟性にすぐれていない。

また乾燥に弱い。関係機関では、田植を遅くするなど適正な肥培管理指導を行ってきたが、これ以上は温暖化には対応できないといわれている。新品種の早期導入を望む声が上がっており、対応策として「にこまる」という高温登熟性にすぐれたポストヒノヒカリの導入が考えられている。

排水対策事業の効果は

問 県営水田農業活性化排水対策事業は、水田の乾田化を図り裏作物の導入と転作の定着化を実現し需要変動に応じた農業経営を確立する目的で平成六年度から実施されている。しかし、三日月町西部地区、土生及び石木地区では、地下水が高く近年の宅地開発や集落内の排水整備により湛水被害が生じ、円滑な

水田転作などの推進状況ではない。特に小城、牛津線県道の暗渠のコンクリート壁と河川のブロック壁の設置の問題のため効果はないに等しく、早期撤去を求めるとい

答 (北島産業建設部長) 県の農林事務所と土木事務所にお問い合わせをして関係地区の同意、協議、調整して対応していきたい。

答 (江里口市長) 下流の状況を勘案し関係機関と協議し、現状を確認して、関係集落の意見を聞きながら検討していきたい。



▲広域農道北石木地区冠水田(三日月町)

市丸 典夫 議員



商工会議所と商工会の融和を

問 小城市内に商工会議所と商工会の二つの組織がある。それぞれ違った組織であり大変

難しい問題であるが一本化できないか。それが無理であれば、二つの組織の融和をどう図っていくか。

答 (江里口市長) それぞれ商工会議所法、商工会法で定められた特別認可法人である。それぞれの法の目的は同じであり、事業内容もほぼ同様である。しかし、設立要件が異なるほか設立に至る歴史的背景、経

緯や組織の運営方法なども異なっている。一本化は大変難しい。しかし、双方が一体感を持つような施策をとるべきではないかと思う。

問 今年度補助金を商工会議所に四百三十万円、商工会に一千六百六十万円出されている。金額の差はなぜか。

答 (江里口市長) 合併前の各町の補助額を参考にし、それぞれの予算のヒヤリングを行って決定している。

問 旧町時代の補助額ということで一応の理解はするが、市となり二つの組織に差がありすぎるのではないか。もう少し商工会議所の方にも手厚くできないか。

答 (江里口市長) 今までのいろいろ背景があり、一律にする

るということは違うのではと認識している。



▲歩道がなく危険な晴田小前国道(小城市)

通学路に歩道設置を

問 晴田小学校校門前に国道二〇三号線がある。校門前、歩道橋より西、晴田橋より東の区間約七十メートルの間に歩道がなく、大変危険である。

答 (江里口市長) 地域の皆さんと一緒にになって、佐賀国道事務所に道路改良の要望をしていく。

樋渡 邦美 議員



行政改革の取り組み状況は

問 行政改革の取り組みについては、平成十八年二月に小城市行政改革大綱が作成された

が、現在どのように取り組まれているか。本庁方式の移行については。

答 (江里口市長) 小城市全体のまちな姿としての観点から検討し、三日月庁舎がいいんじゃないかと評価をした。

問 本庁方式検討委員会での議論の内容について

答 (森永副市長) 委員長として各委員からの発言を得て最終的には市長の意見で最終決断をし、委員会においても、市長の考えを理解し了解した。

問 本庁方式移行後の既存庁舎について、市長はどのような方向性を持って対処するつもりであるか。

答 (江里口市長) 施設の状況や地理的条件などを考慮しながら、また地域住民の皆さんの意向を十分踏まえ、それぞれの観点から活用方法を十分検討する必要があると考えている。

問 改革プランの中で自主財源の確保のため、遊休地については処分することにより、自主財源の確保を図るとなっているが、どの様な

方法で処分を考えているか。

答 (江里口市長) 原則として一般公募による売却を考えている。箇所数は十四カ所、合計面積が一万四千四百九十平方メートル、その内の三カ所の土地について現在一般公募による売却事務手続きをしている。また遊休財産の利活用をしっかりとっていく必要があると考えている。

問 市税徴収率の向上対策は

答 (江里口市長) 方策として日々の徴収はもとより、各課管理職による夜間徴収、嘱託員3名体制で定期的な徴収、また差し押さえを強い姿勢で取り組む。この他に、人事評価制度、職員の定数管理適正計画、図書司書の民間委託について質問した。

松尾 義幸 議員



松本山採石場強い 姿勢で対応を

問 小城市岩蔵にある松本山で四十年にわたり採石業を続けている(株)タニグチに対して、

小城市は平成十八年三月、松本山採石場安全対策提

言書を出した。どう生かされているか。

- ①短期三年、中期五年、長期八年で採石を終え安全対策を図ることに対する(株)タニグチ側の主な主張点は何か。
②採石場の土地所有関係はどうなっているか。
③採石場の裸地(採石後の裸になった土地)の面積はいくらか。
④松本山周辺の環境調査

の現状は。

答 (江里口市長) 採石計画は十五年超である。

(株)タニグチ所有、四十四筆、十六万九千平方メートル、民有地の借地一筆千四百平方メートル、小城市からの借地二筆七万五千九百平方メートル、合計総面積四十七筆二十四万六千四百平方メートル。裸地は、現在七万四千

八百平方メートルで採石認可がおりている平成二十一年三月までに六千七百平方メートル増える。

(株)タニグチにおいて採石場の認可条件である定点観測調査を定期的に行い、粉じん、騒音、振動、水質対策等を行っている。

問 小城市が貸付けている土地の一年契約が三月三十一日で終る。採石場の主要な部分を貸付けているわけだから、

答 (江里口市長) 安全対策がとられないならば、断固として借地問題を含めて対応していく。

この他に①小城市のまちづくり(芦刈町都



▲裸地が広がる松本山採石場

市再生整備計画、コンパクトな中心市街地のまちづくり)②うしづ石工の里ウォーキングコースについて質問しました。

高木 一敏 議員



地元対策は智慧と誠実さで

問 小城市だけが公共下水道の申請が出されていないのが現状だ。牛津町の浄化センターの

敷地面積が一万三千八百平方メートルで他に、公園、野球場が約五万五千平方メートルで約四倍である。さらに隣接するア

イルを含めると、敷地面積の約六・五倍を地元対策として、現実に行なっている。人里から何百メートルと離れた所でさえ小城市の浄化センターの用地が約三万六千平方メートルの計画と聞いているが、もっと地元周辺の対

策として用地を確保するべきではないのか。

答 (江里口市長) 地元の方々とも、

いろいろ協議をしている。地元からは、地域のエリアを含めた全体が将来的に発展するような計画づくりをと、指摘を受けている。都市計画などとの整合性も検討しなければならぬ。地元の皆様とはいろいろな形で、コミュニケーションをとるよう

情報格差の解消を

問 ブロードバンド時代に情報の格差があつてはならない。どこに住もうと、いつ住もうと、だれと住もうと、地域間格差がなく、機会均等に情報が得られる地域

社会を実現しなくてはならない。十九年度は、芦刈地区全域をCATVによる情報通信網が整備さ

答 (江里口市長) 私の公約として、

市民の皆さんが等しく情報通信技術の恩恵を享受できるように、インターネット網の整備を掲げている。業者と協議しながら、ケーブルテレビのエリア拡大を図っていききたい。

妊婦の無料健診もつとPRを

問 少子化対策として国は妊婦健診の予算を倍にしている。安心して産んでもらうために

もっとPRしては。

答 (江里口市長) 来年四月から二回

から五回に増す。いろいろな機会に向いてPRする。

香月チエミ 議員



本庁舎移行住民への説明は

本庁舎は三日月庁舎を活用するという市長の判断を、市民へ説明する機会をもつべきでは。

答 (江里口市長) 基本構想や懇話会、議会の特別委員会、庁内検討委員会などの意見を総合的に判断した。四町が連携してそれぞれの活性化に向けて計画的に、どのように取り組むかを改めて説明する。



三日月庁舎

婦人会や老人会への支援を

これらの伝統的地縁組織への新規加入、組織の維持が大変厳しい状況だ。地域力の低下とも連がり問題である。

答 (江里口市長) 老人会の会員数は平成十七年が七十二クラブ四千百十九名、平成十九年は五十六クラブ三千五百五十一名と年々減少している。今後団塊世代の参入などにより、新しい活動スタイルや運営活動への支援をしていきたい。

答 (今村教育長) 婦人会の会員数は平成十七年が千四百八十一名、平成十九年は八百二十一名と会員減に歯止めがかからない。今まで地域婦人会が営々と築いてきた足跡は十分理解しながらも参加しにくい状況がある。他の団体の活

動と連携、融合するなど今までの事業の見直しも必要。

答 役員のみ手がな

いということでは単位老人クラブの組織の存続が危ぶまれている。書類の煩わしさなど事務対応についての指導助言を。また職員や配偶者への婦人会加入の呼びかけを。

答 (古川福祉部長) 担当課へ事前に相



老人クラブスポーツ大会

談があれば指導できる。答 (江里口市長) 極力呼びかけ、PRを常にやっていきたい。

岸川 英樹 議員



二十年度の財源は

財源不足が見込まれるなか、新規事業や大型事業に対する対応、考え方は。

答 (江里口市長) 一番目に行政経費の節減合理化、二番目に滞納対策の強化、三番目に既存事業の縮小化、四番目に公平性と受益者負担の原則など、その所要財源の確保に努めていく。

答 (江里口市長) 重点的に取り組みたい事業は。

答 (江里口市長) 学校の施設整備、下水道の整備、本庁方式

答 (江里口市長) 市の支援はやっていき

答 (江里口市長) 市の支援はやっていき

の移行、市街地活性化事業、広域清掃センターの建設などを、年次的に計画し実行したい。

老人会の状況と問題

会員の減少が続いているが、市として活動支援が不十分では。

答 (江里口市長) 市の支援はやっていき

市の支援はやっていき

防災行政無線の考え方

芦刈地区では個別受信機が設置されているが、予定では屋外拡声器になる計画、災害時に大丈夫か。町土の大半が海拔ゼロから三メートルと低く、大潮が一番危険度が高くなる。



▲過去の高潮被害の様子(芦刈町)

答 (江里口市長) 危険地域についてどう配慮するかは、安全安心のために今後協議し

答 (松本総務部長) 飲料水は六リットルを六百本、非常食はク

答 (松本総務部長) 飲料水は六リットルを六百本、非常食はク

上瀧 政登
議員



平成二十年度の予算編成は

問 平成二十年度予算の編成方針、基本的な考え方は。

答 (江里口市長) 事業の継続と改革プランを進めていくと平成二十四年度に基金はなくなり財源不足が見込まれる。歳入の増加は期待できず税源移譲後の市税の徴収率の向上を目指すのが現状だ。地方交付税等も総額抑制が続き、歳出は高齢化の進展により扶助費が増える。公債費も増加し、財政運営上の弾力性を阻害する一因となり、特別会計や企業会

計への繰出金など、増加傾向が見込まれる。平成二十年度は歳入の確保と歳出の抑制につとめ、行政改革プラン及び財政健全化計画以上に予算編成過程において事務事業の見直しと改善を通じ行政改革に取り組む。

問 本庁方式について三日月庁舎の場所と方針が示された。庁舎西側の駐車場は借地となつているがどうい

問 側地の権者に交渉。売却はしないということでは地になつている。

問 市民病院の運営は健全か。

諸泉 定次
議員



市民協働での防災体制

問 昨年防災マップが全戸配布されたが、地域住民との協議で避難箇所、避難経路など市民協働でやるべきだ。過去

の被害地や急傾斜危険箇所

答 (江里口市長) 地域を絞った防災マップは必要。自分たちの地域は自分たちで守る自主防災組織の充実に支援したい。

問 防災意識は地域で温度差がある。モデル地区を作るべきだ。



▲昨年5月の防災避難訓練

答 (江里口市長) 同じ考えである。

問 広域バスはどう利用者増を図るのか

交通弱者の広域循環バスは、無料で利用者増を図るべきだ。

答 (江里口市長) 市民アンケート、市内交通事業者のヒアリングや公共交通体系の構築検討委員会で、有料か無料かの検討を行う。公平の原則から一部負担の検討も開始している。

問 フッ化物洗口は十分な情報公開の原則を守れ

虫歯予防のフッ化物洗口は、専門家でも賛否両論あり、充分

な情報公開がなされていない。

答 (江里口市長) 小城市次世代育成支援地域行動計画を福祉部で策定し、平成二十一年度を目標に小学校全校での実施計画で教育委員会と協議したい。

答 (今村教育長) 賛否両論があり、全小学校でフッ素洗口を進める判断に達していない

答 (田中病院事務長) 外科、内科を初め医師の確保が最優先課題。内科医師二名が十二月末で退職するため医師の確保に全力を注ぐ。

答 (江里口市長) 情報提供と実施の時期、実施の方法、条件整備はこれからの協議で十分御理解いただきたい。

今村 昌幸 議員



地域医療の中核として使命達成を

問 小城市民病院は二月に内科医師二名が退職、医療に支障をきたすのでは。

答 (江里口市長) その補充が最優先課題。大病院からの派遣を要請している。

問 経営は十八、十九年度も一億円以上の赤字の見通し、総務省は公立病院改革ガイドラインを策定し再編、経営形態の見直しなど改革プランを設置自治体で作成することになるが。

答 (江里口市長) 医師不足を含め改善にしっかりと取り組む。

問 形となる予算編成を 二〇二二年に財政が赤字に陥るとの見通し、健全化に向けて策定した行革大綱、財政健全化計画などそれ以上の取り組みをしているが、赤字に陥るでは行政運営の力量が問われる。大幅な歳出削減が必要。

答 (江里口市長) 行財政改革プランを基に進めている。

問 牛津の保育園、公営住宅、庁舎の駐車場等の借地料は、金銭給付を目的とした将来の財政負担を伴うもの、債務負担行為として別に予算を組むべきと思うが。

問 本庁方式への移行は 本庁方式の移行は、これまで専門的な立場で策定した基本構想を基に検討委員会、懇話会の提言等で新庁舎の位置は、既存の小城庁舎として活用、検討をしていたのではないかと。それを事業効果など結果が先に求められる行政評価もしてない三日月と判断をしたのか恣意的ではないか。

答 (江里口市長) 四つの庁舎を再検討し利便性、都市の姿など総合的に判断して私がかめた。残り二年での移行は努力ができるか確約はできない。

岸川 弘文 議員



中心市街地選定は短絡すぎる

問 ①小城中心市街地の目標とするコンセプトとその方策、社会资本投資の具体的整備は

どのようなものか。
②小城市の都市構造の位置付けは
③公約の牛津駅南開発と商店街活性化対策は、どの手法で。

答 (江里口市長) 小城中心市街地は、二十二軒の空洞化による活力の低下と歴史文化資産が失われつつあり、町の財産や魅力の衰退へつながる。小城観光の玄関口として魅力的なま

ちづくりのコンセプトを設定する。
小城町は歴史と観光、三日月町は都市計画区域の設定、牛津町は商業と文化、芦刈町は農業、水産業を中心とした都市再生整備の方向性である。
小城市には、小城地区と牛津地区の中心市街地があり、中心市街地活性化法で採択されるのは市で一カ所である。牛津の駅南開発についてはいろいろな手法、メニューがあ

り、その一つにはまちづくり交付金などもある。今後いろいろな手だてを講じながら、支援していく。

問 市で基本計画策定は行なうとなつていますが、市民の声を聞くことなく、一方的に進めていくことに、市行政の姿勢を問う。プロセスは市民協働で。

答 (江里口市長) 計画づくりだけでなく、終るものではなく、これから、地域住民で実行に移す。計画の必要性を伝えて、住民と行政の役割分担を明確にして進めて

答 (北島産業建設部長) 具体的な計画はこれからで、費用対効果があるよう努力する。
この他に、交通安全対策について質問しました。



▶小城本町商店街

合瀬 健一 議員



教育施設の使用は適正か

ある小学生のスポーツクラブが、学校の体育館を使って活動を行っているが、昨年

ごろより講師に月謝を払っているという事実がわかった。他のスポーツクラブでは、月謝を取っているところはちゃんと使用料を払って社会体育館などを利用されている。他のクラブに対して不公平ではないか。

答 (今村教育長) 指導者本人が月謝を取って公的体育館を使用することは、法的にも市の条例にも違反する。

ただし、そのクラブの保護者会が指導謝金を支払って、運営する中で体育館を借用となれば、法的には問題ない。

答 (今村教育長) 保護者会が土台であって次に謝金がある。教育委員会が強く入り込むことは法的にはできない。保護者会が自分たちで改善するなり考えてもらいたい。不公平なところがあるならもう一度精査して指導していきたい。

問 今年度でこの事業は終了と思ってい

る。三日月町あたりは相対集落の場所があり、冬は真っ暗の中を中学生が帰っている。現在も末端集落の区長、育友会は通過集落の区長に対して要請を行っているが、地権者との交渉もあり、なかなか進んでいない。今後集落と地権者との同意が得られれば、継続できるか。

遮光板を入れるなど対策を行っているが、それにもかかわらず農作物への被害がでている。やはりこの事業は、地域の方々の理解と協力がないとできない。事業そのものは、今年度で終了するが、話が進まればしっかりと整備をしていく。

平野 泰造 議員



農家経済の崩壊と進む現状打破は

品目横断的経営安定対策が始まった。この説明を受けて内容は解っているつもりであ

たが、米麦代金が十二月十二日現在入金されていない。米価下落、麦代金も昨年までと比較すると非常に少ない。農家は生産意欲をなくしている。市長はこの現状をどう考えられるか。

答 (江里口市長) 本来、農業所得安定など農業の活力を目指すしていく政策である品目横断的経営安定に対し、批判や改正の要請などが

あり、資金繰りなど、農業経営がますます厳しくなっている状況で非常に何かおかしく大変と思っている。小城市だけの問題でなく、市長会など全体を挙げて国などに要望していく。

問 小城のブランド開発を上げられているが小城市単独の振興策は

答 (江里口市長) 市内の連携を深め

J A・普及センターなど十分に協議を行い当市にあつた数種類を試験的に栽培したい。

答 (江里口市長) 地域において深刻な問題でもある。先頭に立って国に要望していく。

で泥土揚げをしのり面を仕上げて植栽したら効果があると思う。地域水田農業支援緊急整備事業については再度県に要望したい。

問 どこでも法面が崩壊し畦畔の維持が危ぶまれている。国県の事業は新規採択が難しいが対策は。農地水環境保全向上対策事業でクリーク

の泥土揚げをして、法

答 (副島農村整備課長) 法面が崩壊したままではグラウンドカバーランツをしても効果がな

いと思われる。農地水環境保全向上対策事業など



▲センチピートグラスを植えた畦畔(東与賀町)

金原 修光 議員



答 (江里口市長) 現在の職員を三日月庁舎だけでは、厳しい状況だ。今後、組織、人数など検討する。本庁舎への道路アクセスは、今後計画する必要がある。

問 議会採決や市民にきっちり行うべきだ。

答 (江里口市長) 三日月庁舎への位置変更には、議員総数の三分の二以上の議決が必要なので、しっかりと説明努力していく。

市民が望む公共交通

問 福祉部担当の福祉巡回バスと総務部担当、広域循環バスとコミュニティタクシーがある。行政における、縦割りのへい害で、効率な運行でない。是正すべき。

答 (江里口市長) 広域循環バスと巡回バスとの連携運用など見直す時期に来ている。

市道整備について

問 活力ある地域づくりは道路からというが、合併後も、各地区の道路整備が進んでない。梅まつり開催地の牛尾地区。生活排水路整備、村中道路整備は、旧町時代指摘しているが、未整備。市内各地のイベント会場周辺道路の点検整備を。

答 (江里口市長) 佐賀市の道路整備



▶牛尾地区市道整備(小城町)

評価制度など勉強し、地区の道路整備は、公明公正にやっていく。

明石 壽彦 議員



取り組みをされるか。

答 (江里口市長) 本年三月に策定した小城市人材育成基本方針に基づいて取り組んでいる。市民から信頼される職員を基本理念とする。倫理観と使命感を持ちみずからを磨く。市民と協働を進める。政策を立案する。新たな課題に挑戦する。経営感覚を持つ。五項目の職員像を掲げ活

気ある職場作りを進めている。

問 市民との対話はよくしておられるが市長の考え、方針が直接に影響する職員との対話、意志疎通が不足している。

答 (江里口市長) 職員とのコミュニケーションが十分でないという気持ちは持っている。時間がある時は極力職

員とコミュニケーションを取るよう努力している。

問 職員の服務規律について、これまで何回かマスクミに報道された職員の不祥事についてどう認識しているか。

答 (江里口市長) 小城市職員全体にとって大変不名誉なもので行政に対する信頼を揺

るがすものであり、市民への信頼回復が喫緊の課題と受けとめている。合併後、戒告二件、減給三件、懲戒免職一件。

給食センター建設の進捗状況は

問 牛津中学校完成に合わせて給食センターからの配食が出来るよう努力したいというおられるが、現在の進捗状況は。

答 (今村教育長) 候補地の選定を行っているところであり、新年度の予算で用地買収費、設計委託料を計上し、牛津中学校建設に合わせて給食の提供ができるよう努力したい。



▲牛津中学校給食風景

問 小城市の財政は非常に厳しい。これを克服するためには意識改革と人材育成が重要である。基本的な考え方、

職員の意識改革

五項目の職員像を掲げ活

時間がある時は極力職

揺

状況は。

活動あれこれ 議員あれこれ



11月「地方交付税緊急大会」(多久市)



11月「天山林野火災訓練」(八丁ダム)



12月「小城市まちづくりシンポジウム」(小城公民館)



1月「小城市消防団出初式」(小城町自楽園)

堤 謙太 議員



家庭の日、家族の日の取り組みは

問 急速に少子高齢化が進むなか安心して結婚し、子供を産み育てられる小城市を築くこ

とが重要である。出産や子育てを家族がはぐくみ、家族を地域・社会が支える「家庭の日」「家族の日」の取り組みは。

答 (江里口市長) 現在、健康増進化で取り組んでいる妊婦、

出産育児を通して、夫婦のあり方や、パパ、ママ教室を各社会福祉センターで年三回程開催している。(七月、十一月、三月)また、こども課では

子育ての中、親と子供たちが自由遊び交流をし、育児に関する相談や、育児不安を解消できるように児童の健全育成に取り組んでいる。子育て相互支援、育児サポーター、三世代触れ合い交流など地域と密に実施している。

問 次世代を担う子供たちが健康で安心して生活していくために、家族と地域のきずなを再生する運動の取り組みは。

子育ての中で、親と子供たちが自由遊び交流をし、育児に関する相談や、育児不安を解消できるように児童の健全育成に取り組んでいる。子育て相互支援、育児サポーター、三世代触れ合い交流など地域と密に実施している。

答 (今村教育長) 子供が育つ第一の場は家庭であり、人間の形成の根幹を成す親の役割は非常に大事である。現在展開されている「早寝、早起き、朝ごはん」と言われる規則正しい生活を小城市として総体となつて家庭、地域、学校が連携し積極的に取り組んでいく。

問 小城市として、オンラインワンのな

「家庭の日・家族の日」の制定は。

答 (江里口市長) 小城市として、行政、地域、家庭がきずなや、人と人とのコミュニケーション、つながりをもう一回思い起こす事が大事である。今年から始まったスローライフ事業に「家庭の日」「家族の日」をからませて、小城市のオンラインワン事業を確立していきたい。

小城市として、オンラインワンのな

